

さわうエコナビ通信

第16号・発行
平成25年10月15日
早良区生活環境課
TEL:833-4341
協力
早良区環境活動連絡会議

エコ学習会

新聞紙や牛乳パックを使って
エコバッグ、小物入れを作ろう！

西新校区環境活動連絡会議



新聞紙を使ったエコバッグ作り

などと質問がとびかう中、作業が楽しく進みました。

感想に、参加者から「座布団一枚」とのかけ声が上がっていました。次に、包装紙を貼った牛乳パックを使って、小物入れ作りを体験しました。

エコ学習会では終始、参加者同士で和やかなムードと笑い声が講堂に溢れました。



牛乳パックで作った小物入れ

環境講座

廃油せっけん作りを通して
環境問題を学ぼう！

西新校区環境活動連絡会議（田中共仁子会長）は、5月31日、西新公民館の講堂でエコ学習会を開催し、エコバッグや小物入れを作りました。

始めに、講師である『早良区さわやかスタッフの会（真弓勢津子会長）』から、同会の設立経緯や現在の活動状況（体験教室、出前学習、ペットボトルキャップ回収など）について紹介がありました。

参加者（26名）は、講師からエコバッグ作りの手順の説明を受け工場を開始。新聞紙を3枚ずつ手に取り、「3枚とも糊をつけるの」「1枚ずつ貼つた方が良い」



廃油せっけん作り

始めに、ビデオ『金屑川クリーンアップ作戦』の鑑賞と河川清掃や廃油せっけん作り、リサイクルの啓発など、同会の取り組みの紹

長）主催の第3回「たぐまカレッジ」（年16回開催）が、7月5日に同館講堂で開かれ、地域の住民24名が参加しました。講師は『自然環境保護市民の会リバークリーン21・リサイクル21』実行委員の藤原イツカさんと永渕加奈子さん、西村節子さん、森みち子さんで、環境問題や廃油せっけん作りを学びました。



廃油せっけんを参加者にプレゼント
(「自然環境保護市民の会」製作)

介があり、その後、参加者は廃油せっけん作りに挑戦。牛乳パック（顆粒の苛性ソーダが少量入つている）に少量の水を加え、しばらくおいてからペットボトルに入つた廃油を加えます。竹箸で15分ほどゆつくりかき混ぜ、ややとろみが出てきたところで作業は終了しました。

作業にあたつては、「苛性ソーダは強アルカリ性の劇物であり取り扱いに十分注意する」「使用済みの油の方がせっけん作りに適している」「風通しのいい所においておくと、半月から一ヶ月でせつけんが出来上がる」などの説明を受けました。

始めに、宮地館長から「毎年、公民館で身近な環境問題の学習会や環境関連の施設見学会を行うなど、飯倉中央校区は環境に対する意識が高いと思います」と挨拶がありました。



出前講座「越境大気汚染ってなに?」

環境講座

越境大気汚染ってなに?
飯倉中央校区
自治協議会環境部会・
飯倉中央公民館

参加者からは、「昔、一斗缶を使つて廃油せっけんを作つたことがある」「どんなせっけんが出来上がるか楽しみ」などと話に花が咲きました。上がるか楽しみ」などと話に花がある」「黄砂が飛来した時、人によつては目やのど、鼻の調子が悪くなる」「P M 2.5とは、髪の毛の太さの三十分の一程の微小な浮遊粒子を指す。吸い込むと肺の奥まで入り込みやすく、呼吸器系だけでなく循環器系への影響なども懸念される」「P M 2.5の環境基準値超過が予測された日は、呼吸器系疾患やアレルギーがある人は、外出時のマスク着用、帰宅時のうがい・洗眼を行う」「正しく対応すれば、過剰に恐れる必要はない」

講座の最後に、安本会長から「温暖化により北海道でも厳冬期に土が深くまで凍らず、取り残しのジャガイモが冬を越して小さく育ち商品とならない、『野良いも化』している」などの話題をまじで入った地球温暖化の話や、校区の資源回収状況について報告がありました。

PM2.5等の測定結果(簡易版)

URL

<http://www.fukuokakanshi.com/mobile/index.html>

二次元バーコード

